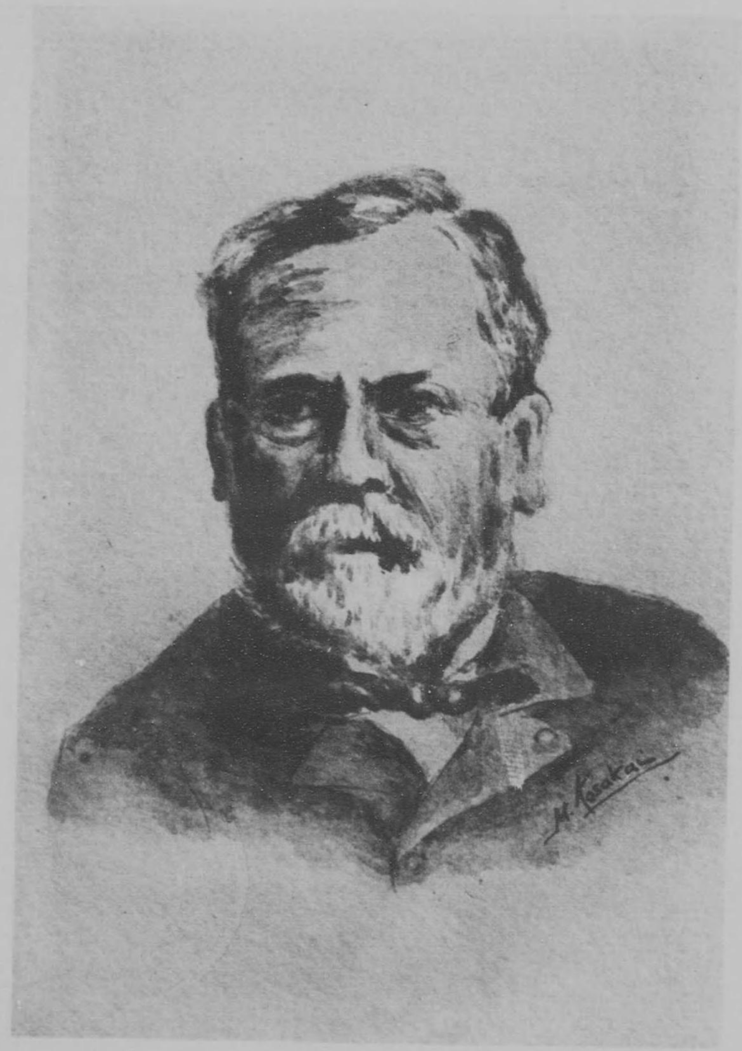
に一種の病氣が流行した爲である。それで十年ばかりの間に佛蘭西は年々約一億二千萬法の損害を受けることになつた。そこでパストールは五箇年の辛勞によつて、漸く其の病因及び豫防法を見つけたが、なほ他の一種の病氣があることが明かとなつた。後更に數年を經て、遂に之が研究を完成したが其の間に彼は愛孃を失ひ又自身も苦しい疾病に惱んだ。彼の眼中國家の利益のみあつて一身の利益は更に無かつたのである。



チンダルがデーヴイ及びフアラデーの師弟關係を說いた文章の中に、この二人の最も感心すべき點は二人共其の研究の結果を賣り物にしなかつたことであると述べて居る。其の業績に於てデーヴイ及びフアラデーは千古不朽の名を縱にして居るが其の名を一層香ばしくするのは二人が所謂學商でなかつたことである。フアラデーにとりては百萬や千萬の富を作ることは何の雜作もなかつたであらう。然し乍ら彼の欲した最も大なる報酬は富では

なくて新發見の喜びであつた。

このファラデーを生んだ英國に現今細菌學者のライトの樣な學商の出たことは頗る遺憾に堪へぬが、茲に今の學者氣質と古の學者氣質の逕庭が見らるゝではあるまいか。一言にしていへば學者氣質は一般に墮落し始めたのである。國家が專賣特許の法を設けて發明を奬勵し研究を保護するのは頗る善いことではあらうが、人々が其の目的を主として研究する樣になつては由々しき事である。されば時



としては金になりさうな研究に手を染めて、然らざる研究を捨つる樣な弊害も出來てくる。さういふ不心得な學者には到底立派なことは出來まいがこんな氣風が流行しては學界の前途が頗る心細い。

中にも人の弱點に乘じて、充分なる研究もしないものを直ちに市場に出す一部の新藥發見者流の如きに至つては許すべからざる罪人である。貴重なる人命を犧牲にして以て私腹を肥さんとする、正に車裂の刑に處しても贖

らぬものであらう。かゝる連中は最早學者たるの資格は勿論ないが、悲しいことに世間は往々それを洞察するの明を缺く。

同じく衆愚に乘ずるにしても大昔の學者達はたゞ他愛もない子供心からして色々と世間を驚かしたものである。今の學者の或るものは、胸に恐ろしい一物あつてのことであるから危險なること此上もない。



## 道義

むかしは七尺去りて師の影を踏まずと言つたが、今は途中で擦れ違つても帽子をさへ脱がぬ。これは一に現今の教育制度の餘弊ではあらうが、考へて見れば誠に情なき現象である。師弟の關係のみならず一般に人と人との間の情誼は極めて薄くなつた。杜甫ですら既に「翻手作雲覆手雨」と憤慨した、況んや現代に於ておやである。されば師弟の間に暖か

みが少くなり友達同士の間には暗闘とか敵視とかの忌はしい弊害が現はれて來て學問するにも餘程樂しみが減じた譯である。

併しながら歴史を繙いて見ると優れたる學者は、最も暖い心の所有者であつた。そして其弟子のゑらくなることは、自分のゑらくなることであるてふことをよく了解して居たのみならず弟子を愛すること自らを愛するが如き人達であつた。パストールは其門弟に對しては勿論、自分の研究に興味を持つ凡ての人



に極めて親切であつた。加之彼が彼の使用する動物に對する熱愛は寧ろ滑稽な程深いものであつたそうである。現今の研究者が動もすると動物を待遇するに無頓着なるは頗る歎かはしいこと、思ふ。英國では動物の濫費及虐待を制限する爲研究に必要な動物は内務省の許可を得て使用することになつて居り又手術などを施す際は、事情の許す限り魔睡劑を使用することになつて居るが、なるほど之によつて、表向動物虐待は防ぎ得るかもしれぬが、

研究者自身が眞實なる動物愛護の心を持たなかつたならば形式のみでは駄目な譯である。誠に暖かい心の所有者の業績は之に接する時何となく懷かしい感じがするもので、パストールを始め、リスターやフアラデーが何れも熱心な宗教信者であつたことも何者かを語つて居るやうに思はれる。

ルードウイッヒが自分で行つた實驗の多くを弟子の名を以て公にせしことや、ハンターが弟子ゼンサーに對した態度は前にも述べた



が、現代にあつては、どうかすると弟子の行つた實驗を自分の名で報告したり又弟子の考へ付いた觀念を奪つて自分のものとするものが無いでもない。かゝる不心得な師に養成せられた弟子は自然にまた相互に不德を行ひ易い。かの姙娠反應で有名になつたアブデルハルデンは自分の腹心の輩を他の教室に住み込ませ而して竊かに其教室で行つて居る事を內報せしめ少しよい研究事項であると先廻りして實驗を行ひ之を公にしたそうである。かや

うな間諜制度が學界に應用せらるるに至つては實に學界の澆季である。學者氣質の墮落は茲に至つて正にどん底に達した觀がある。かういふ人の業績はたとひ其内容が善くても少しも尊敬する氣になれない。和歌や俳句乃至其他の文學的作物に剽竊の許し難きが如く學術上の剽竊は斷然之を許すことが出來ぬ。學者は宜しく俯仰天地に恥ぢざる態度を以て急がず迫らず堂々として研究に從事せねばならぬ。ハーシエルがフアラデーの將來の研究せ



んとする事項を聞いてフアラデーに送つた手紙に「力から力へ、恰も凱旋將軍が更に征服を期して行進するが如く、衆人歡呼の中を、悠然として御進みなさい。併し何人の歡呼も此ハーシエルの心からなる歡聲に如くものはないことを記憶して下さい」と何たる暖かい言葉であらう。世には時として他人の榮達を嫉視するもの丶多き中にこの眞實なる督勵者を得たフアラデーは實に幸福であつた。他人の喜びを心底から喜び得る者こそ眞に眞理を

愛する者と謂ふべきである。

先哲は「日に三たび我身を省る」と言つた學者は忙しい研究の間にも常に自己を反省せねばならぬ。大なる眞理は暖かき心の所有者をのみ好むものである。人間として批難せらるゝものが學者として何として尊からうぞ、治に居て亂を忘れ、名を得て心驕るものは最早眞理研究の資格はない。ファラデーの瑞西旅行日記の中に「この地は靴釘製造が盛んで夫れを目擊するのは誠に樂しいものである。



自分は鍛冶屋の仕事が大好きである父が鍛冶屋であつたから」とある。心ある者は此の數行から何物かを會得するであらう。

メロニが熱電氣の應用に關する重要なる研究をした所、當時佛蘭西の學界では之を認めなかつた。彼は貧苦に責められつゝ今に科學協會の審査員から報告せらるゝかと待ちに待つたが無益であつた。遂に彼は已むなくあ雜誌に報告した。ところがその雜誌が英國のファラデーの手に入るや彼は直ちに其研究

の立派なることを認めてローヤル・ソサエチーのラムフォード賞牌を贈る樣取計らつた。無論其の賞牌には若干の金員が附隨して居た。見ず知らぬ人のこの厚志に對して、飢餓に迫つたメロニは涙を流して雀躍した。



## 常識

專門分科の弊は學者をして自分以外には知識も無ければ興味もない事物の研究に從事せしむるに至り從つて動もすると常識の乏しい學者を作り易い。學者は未知の境に進んで自然の秘密を暴露する役目を持つと同時に其の獲得した知識をよく萬人の所有たらしむる役目をも持つて居るので、換言すれば眞理の探究者であると同時に一世の指導者たるに於て

眞の學者の資格を具へたものと謂ふべきである。而して一世の指導者たらんとするには是非常識が圓滿に發達して居なければならぬ。即ち品性の陶冶と常識の涵養とは必ずや並行すべきものである。加之、常識はまた眞理の探究に際しても事物の判斷をして最も安全ならしむるもの換言すれば吾人をして觀察の誤謬を免れしむる一の安全瓣である。日本のある解剖學者が日清戰爭を知らなかつたのは有名な話であつて、なる程日清戰爭と解剖學と



は沒交渉であるには違ひないが、それによつて其の常識の程度も推測せられ、折角の解剖學までが死んで了ふ樣な氣がする。人間として苦勞が足りなかつたり又は修養が缺けて居ると得て常識は缺乏する。かゝることは世間見ずの所謂お坊ちやん育ちの學者に往往有る事である。多藝多能は必ずしも學者として誇るべきことではないが、ある程度まで世間並の知識は之を得て置かねばならぬ。昔の學者は多くの學問に精通して居た、例へば數學者

であると同時に生理學者であり又哲學者であるといふ有樣であつた。學問の根本の精神に變りはないから、一方面に秀づれば從つて多くの方面に優れることも出來たのであり又其の一方の知識が他方の研究の際に大に助けとなつた譯である。現今の樣に學問が精密の度を增して來ると勢ひ全般の學に通ずることは不可能であるがせめて一通りの知識、換言すれば高等常識は得て置きたいものである。

昔は煩瑣哲學などといつて哲學は哲學者以



外には何人にも了解し得ざる文字を以て記載せられた樣な時代もあつたが、學問は宜しく萬人の所有たらしむべきものである。而して學問を敎授したり、又は通俗に擴める爲には是非共發達した常識が必要であり、同時にまた文才が必要である。すでにかの研究業績の發表の際にも秀れたる文才が無くてはならぬのであるが科學者ことに現今の科學者の文章には頗る巧ならざるものが多いやうである。動もすると難解であつたり又其の意見が徹底

しない。されば學者は是非共この方面にも修養する所がなくてはならぬ。

ヒユルトルが著した解剖學教科書には一枚も挿繪が無い。それでなくとも解剖學の書は隨分無味乾燥の嫌ひが多いが、これは如何なる事一たび繙くと卷を終ふる迄止められぬ程巧みに書かれてある。而も一枚の挿繪がないのにも拘らず讀むものをしてハッキリと了解せしむる所のものは偏にこの解剖學者の非凡なる文才に依るものである。彼は如何によく人



に教へむかといふことに非常に苦心をした人である。ッッカーカンドルは彼を評して、「シセロの如く語りハイネの如く書いた」と言つた。ハックスレーが才筆を揮つて進化論を通俗的に説いたことは誰しも知る所であるがかういふことは一寸考へると出來さうであつて極めて行ひ難い所である。あまり多く書物を著すと動もするとブック・メーカーといふ譏を受ける場合がなきにしもあらずであるが、其れは其の書物の内容の如何によるもので、く

だらない書物を筆に任せて書けばこそ、之を非難すべきであるが、萬人の蒙を啓くべく書かれた書物はある意味に於て眞理の發見と同じ價値を與へても過分ではあるまいと思ふ。況んや自分の文才の足らぬ事を棚に上げて、人の著作に沒頭するを責むるが如きは學者としての態度ではない。ヘルムホルツ、ヂユ・ボア・レーモン、チンダル、マツハ等は皆優れた文章を以て、科學を一般に普及せしむるに勤めた人達である。チンダルの「フラグメン



ツ・オヴ・サイエンス」やヂユ・ボア・レーモンの演說集の如きは學に志すものの眼を通す價値のある書物であると思ふ。殊に後者の「世界の七不思議」「自然科學の極限」の如き論文は近代の文藝思潮にも大なる影響を及ぼしたものである。氏はまた佛蘭西唯物論者のヴオルテール、ヂデロー等を研究しヨハンネス・ミユラーやヘルムホルツの傳記をも書いた。先哲の傳記を研究することも學者たるものゝ敢て爲さゝるべからざる箇條の一であつて、先哲の

人と爲りを學び先哲の考へ方研究の仕方を學ぶことは莫大の利益を得ること今更喋々するを待たぬ。吁學ぶべきことは斯くの如く滾々として盡きず、畢竟たゞ生命の短きを憂ふるのみであるが、世の幾多の學者輩のうち心から「藝術は長く、生命は短し」の歎を發するものは果して幾人あるであらうか。



## 科學と文藝

由來天才は往として可ならざるなしの有樣で、科學者であると同時に詩人であり、藝術家であると同時に科學者であつたものも少くない。レオナルド・ダ・ヴインチは畫家であると同時に優れたる解剖學者であつた。彼は心臟の房と室とを聯絡せる所謂ヒス氏筋束の存在を說いた最初の人であつた。加之彼は又自然哲學に關しても一家の見識を持つて居た。彼

は云ふ「理論は將軍で實驗は士卒である」と又言ふ「自然は理智に始まり經驗に終ると雖も、吾等は經驗より始めて理智を發見する樣勉むべきである」と。大生理學者アルブレヒト・ハルラーは植物學者であり又詩人であつて彼の詩「アルプスの山々」は賴山陽の耶馬溪の詩の如くアルプスの風光を始めて世に紹介したものであつて、詩人シルレルや、コレリッヂにも其の影響が認められる。かの前にも一寸述べたことのあるクロード・ベルナールは

M. Kosakai

若い時に「ローヌの薔薇」といふ喜劇や「ブレターニュのアーサー」といふ悲劇などを書いたが、後ち人に勸められて醫學を修めることになり、其の顯才は師のマジャンヂーをして「君は俺よりも偉い」と叫ばしめた程で、遂に生理學者として千古不朽の名を擅にした。トーマス・ブラウンは醫者としてよりも寧ろ作家として名高く其の著「レリヂオ・メヂチ」は多くの人に讀まれて居る。ゲーテは人も知る如く科學者としても恥しからぬ才能を示して

居て、其色彩に關する論文、進化論に關する說は有名なものである。かういふ例を擧げ來れば際限がないから、話を轉じて玆に少しく所謂文學者なるものゝ科學的知識について述べて見ようと思ふ。

藝術家が自然なり人なりをカンバスの上又は書物の上に寫すには、必ずや眞實を描き出さねばならぬのであつて、藝術家も科學者と等しく自然の精密な觀察者たらねばならぬのは言ふ迄もないが、科學の眞と藝術の眞とは



必ずしも一致しないものである。ミレーが草刈る男を描いたのをある百姓が見てこんな腰付では草は刈れないといつたさうであるが、なる程非科學的な輪廓であるにも拘らず視る者には立派に草を刈る男に見えるのである。然らば藝術家はいつも科學の眞を犧牲にしてよいかといふにさうではない。マーテルリンクがデモルデから其の小說「ボンバヅールの庭師」を送られて其の中に書かれたる花物語を讀んだ後、急いで著者の許に走つて「ルイ

十五世の時にはダリヤといふ花はまだ知られて居なかつたから早速之は訂正を要する」と告げたことは有名な逸話である。それ故文學者も精密な科學的知識を持つて居てほしい。然る上其の表現の際に技巧上已むを得ず必要の場合には科學的眞を沒却することあつて始めて其の道の達人といふ事が出來ようと思ふ。

トルストイは「沙翁論」を書いて沙翁の作に非常に不自然なことが多いのを謗つて居るが、如何にもボヘミアに海があつたり、妖娑



などを用ひて活動せしめたりすることは科學的には極めて不自然不眞實には違ひはないが、其處に科學上の眞と文藝上の眞との相違があつて、これのみによつて決して沙翁の眞價を傷くべき理由とはならないのである。茲ではこのことについて深く論ずべき餘裕がないからたゞ沙翁の醫學的知識に就いて少しく記述し、聊か沙翁を辯護して置きたいと思ふのである。

委細はバックニルの著「沙翁の醫學的知識」

を讀めばわかるが、マクベスをして「醫術は犬に投げ與へよ」などゝ言はしめて居る所を見ると沙翁は如何にも醫學に冷淡であつたかの樣に思はれるが決してさうではなく、バックニルの考證によると、其の時代の醫學に精通して居たこと疑ひない。尤も現今の醫學的知識を以て見れば無論幼稚ではあるが其の時代に達し得らるべき項點まで達して居たら、それで申し分はない譯である。沙翁崇拜者のある者は「ジユリアス・シーザー」の中のブル



ータスの言を取つて、ハーヴェーの發表以前に血液循環の事を言へるものとなし、或はハーヴェーと交際して居たなどゝ考證するものさへ出來るに至つた。併し沙翁は其の頃行はれて居たガレーンの說、即ち動脈は精氣を含んで居るものとの考へを持つて居たと見るのが至當であつて「ロミオとジユリエツト」のロウレンスの言などに明かに表現されて居る。この詩聖の精確なる醫學的知識を窺ふに足る色々面白い例證は澤山あるが、玆に一例を擧

げてこの章を結ばうと思ふ。

それはマンドレーク（羅甸名マンドラゴラ）と稱する植物に關することである。この植物は丁度人參の樣に人間の形をしたもので、之を地から拔き取るときは物凄い叫び聲を發し其の聲を聞いたものは皆發狂するといふ口碑がある。この植物は一種の物質を含有し藥理學的には麻醉作用を現すものである。そこでバックニルの考證によると沙翁は其の劇詩の中に前後六回この植物を引用して居るが其の



內二回は痳醉劑として書いたので其の時は羅甸名のマンドラゴラの文字を用ひ、他は例の口碑を取り入れた場合でその時は英語のマンドレークの文字を用ひて居る。些細な事ではあるがこの大詩人の用意周到な心根が偲ばるゝではあるまいか。

大正十年十二月五日印刷
大正十年十二月十四日發行

【定價金壹圓六拾錢】

學者氣質
奥付

不許複製

著者　小酒井不木
發行者　河本俊三　東京市麹町區飯田町二十番地
印刷者　奥村紫樓　東京市麹町區飯田町二十番地
印刷所　洛陽堂印刷所　東京市麹町區麹町二丁目九番地

不許複製
洛陽堂

電話九段九六六番
振替東京二〇九一四番五一一番

洛陽堂
東京市麹町區
飯田町二十番地

醫學博士 小酒井光次著

# 生命神秘論

▼菊判三百頁挿畫廿枚
▼定價參圓五拾錢稅拾八錢

自然界に於ける許多の例證を掲げて、生命の神秘を語り、自然と人生の親しき調和をはかり科學と文學とによりて殊更に人生を謳歌し煩はしき議論はつとめて省きつゝ現代の理化學が如何なる程度まで大宇宙の秘密を探り得たるかを平易に叙述したる一大詩篇也。

396
338

終